

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 5 月 28 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	岡桃子

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)	
屋久島	
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
屋久島実習 サルシカ斑	
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)	
平成 29 年 5 月 13 日 ~ 平成 29 年 5 月 19 日 (7 日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
京都大学屋久島観察ステーション	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。	
5/13 屋久島へ移動 5/14~16 フィールドワーク, データ集め 5/17, 18 データまとめ, プレゼンテーション 5/19 京都へ移動	
本実習で私は屋久島に生息するニホンザル亜種ヤクザルの個体数調査, 生息域調査を目的とするサル斑に参加した。 14日は午前中にデータ収集の方法や記録方法を学び, 午後から屋久島の各地で調査を行った。各自GPSで決められたルートを記録しながら歩き, サルの姿や声, 糞などを見つけたらその地点 (way point) も記録した。新しい糞はのちのゲノム実習で用いるサンプルとして収集した。 15, 16日も同様に山を歩き, データを収集した。 17日からGPSデータをQGISに取り込み解析を始めた。自分たちの歩いた道やway pointの植生, 標高を, 地域間で比較した。 データまとめがうまくいかず, 18日のプレゼンテーションでは十分な結果や考察を発表することはできなかったが, 班の皆で取り組み何とかまとめることができた。	
	
糞サンプルの収集	ヤクザルの群れ

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



本実習ではシカについてのデータ解析は行わなかったが、道でシカを発見した場合はその地点にも way point として記録した。

本実習はインドやマレーシア、中国など他国からの学生を含めて行われた。そのため実習は英語を公用語としており、データの記録方法や考察を行うときも英語であった。自らの語彙力が足りないため、うまく言いたいことが伝わらず議論が長引いたり、つい日本人だけで話し合ってしまう部分もあった。しかし最終的には各々がやるべきことを分担して何とかまとめあげることができた。

6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS リーディングプログラムの援助を受けて行いました。実習期間中、ご丁寧に指導して下さった先生方、およびプログラム関係者の皆様に感謝申し上げます。